



幅広い音程を用いた ヴァイ風タッピング・プレイ

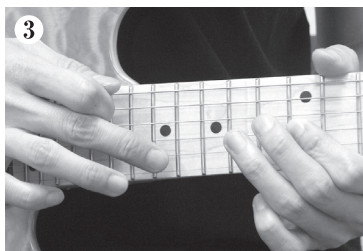
スティヴ・ヴァイが得意とする幅広い音域を用いたフレーズを弾くためには、普通とは違う左手と右手の“感覚”を養う必要があるのだ。このフレーズでは、1小節目でヴァイ風味の強い運指が登場する。ここでは、3弦7フレットを薬指でチョーキングした状態で、3弦17フレットをタッピング(写真①)。続いて、その状態のままチョーキング・ダウンし(写真②)、プリングを行なう(写真③)。このチョーキング・ダウンを行なった瞬間に、左手人差指を3弦12フレットに一気に移動させること。フレーズ自体はシンプルだが、ポジション・チェンジのタイミングや正確な押弦などに注意することは多いので気を付けよう。ちなみに、この後の19フレットのタッピングによるピラートは、右手ではなく左手でかけること。



チョーキングした状態で3弦17fをタッピング。



タッピングしたまま、左手はチョーク・ダウン。



右手でプリング。人差指で3弦 12fを押弦しておくこと。

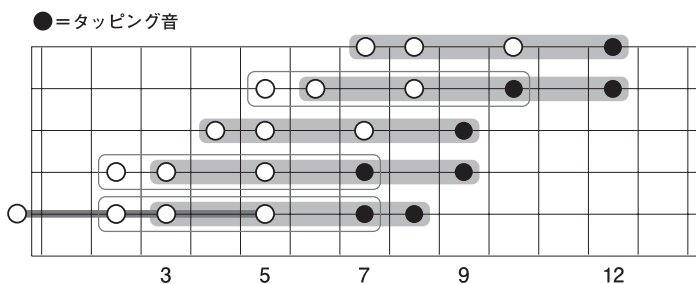
注意点2



**高速 7 連フレイズは
1 小節を一気に弾き切れ！**

後半2小節の高速タッピングを弾くためには、まずスケールを確認し、ポジションの流れを理解する必要がある(図1)。実際に弾く時にはまず7連符は意識せず、タッピングが入るまでを1つの区切りとして、フレーズを分けながら練習すると良い。これに慣れたら、次は7音ずつに区切って(1拍ごとに)弾き、徐々にテンポを上げていこう。ただし、7連は拍子を取りづらいリズムなので、テンポを少しでも上げると、どこを弾いているのかわからなくなることがある。これを防ぐためには、1小節を一気に弾き切ることが大切だ。つまり「1小節の間に7連×4拍の28音を弾く」という感覚を持つようにすれば、7音という中途半端なリズムに惑わされることなく、滑らかに音をつなぐことができるだろう。

図1 Aナチュラル・マイナー・スケール



4音で1つの組み合わせとなっている。

～コラム 30～

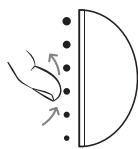
地獄の戯れ言

タッピングは、低音弦側と高音弦側のどちらに向けて引掛ける方が良いのか。ここに着目する人は意外と少ない。一般的には、人差し指を少しくねって低音弦側に引掛ける方が多いようだ(図2-a)。ただし、これまでの写真などで気がついた読者もいるかもしれないが、筆者はその逆で高音弦側に引掛けることが多い(図2-b)。ダウンピッキングの延長で下方方向に引掛けているのだが、確かにこのやり方は1弦で行なうと弦落ちする危険はある。しかし逆に2弦に右手が当たらないというメリットもあるのだ。結論としてはどちらでもいい。しかし、こういう細かいことばかり、高速化へつながることもあるのだ。

意外な落とし穴 タッピングの向きにこだわろう

图2-a

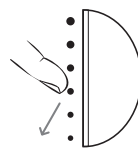
低音弦側に引っ掛ける



指を曲げて、穴をホジる
感じでタッピングする。

Figure 2-b

高音弦側に引っ掛ける



指を真っ直ぐにして
タッピングする。